松山町埋蔵文化財発掘調査報告書（8）

上ノ原遺跡

1994年3月
鹿児島県曽於郡松山町教育委員会

序　　文

新橋表地区で、ふるさと農道整備事業を行うにあたり、この地域は文化財の包蔵地にあるので、上ノ原遺跡を10月25日から11月23日までの間発掘調査をしました。調査面積は24㎡になりました。

この遺跡のすぐ近くに平成元年に発掘調査が行われた香ノ田遺跡があります。香ノ田遺跡では住居跡などの遺構は確認されませんでしたが、縄文時代早期の土器片が多数出土しています。今回の調査でも期待しましたが、以前に畑地を削って平坦にされていたためか、表土からわずかに土器片が出土しただけでした。

遺物や遺構などは出土しませんでしたが、土地の所有者の話によれば十数年前に畑地の造成を行った際に多数の土器が出土したとのことでした。発掘調査があと十年早かったら相当な資料が得られただろうと残念に感じるところです。

最後になりましたが、積極的に発掘調査に従事していただいた方々、また精力的に御指導いただいた県教育庁文化課の先生方に厚くお礼申し上げます。

平成6年3月

松山町教育委員会教育長

教育長　　川　畑　禮　二

例　　言

1．本報告書は、平成5年度に実施したふるさと農道整備事業（表工区）に伴う埋蔵文化財発掘確認調査報告書である。
2．発掘調査は県の受託事業として、松山町教育委員会が実施した。
3．発掘調査の実施及び実測、編集は、上田義明が行った。
4．発掘調査の現場写真・遺物写真は上田義明が撮影した。
5．本書に用いたレベル数値は、すべて海抜絶対高である。
6．発掘調査後の整理作業は松山町歴史民俗資料館で行った。

本 文 目 次

序　文
例　言

第1章　調査の経過
　第1節　調査に至るまでの経過 …… 1
　第2節　調査の組織 …… 1
　第3節　調査の経過 …… 2
第2章　遺跡の位置及び環境 …… 3
第3章　調査の概要
　第1節　調査の概要 …… 9
　第2節　標準土層 …… 9
第4章　まとめ …… 11

挿 図 目 次

第1図　上ノ原遺跡の周辺の遺跡 …… 3
第2図　上ノ原遺跡位置図 …… 7
第3図　上ノ原遺跡地形及びトレンチ配置図 …… 8
第4図　標準土層図 …… 9

図 版 目 次

図版1 上ノ原遺跡発掘調査作業風景 …… 2
図版2 上ノ原遺跡全景（1） …… 12
図版3 上ノ原遺跡全景（2） …… 12
図版4 標準土層 …… 13

表 目 次

第1表　遺跡地名表（1） …… 4
第2表　遺跡地名表（2） …… 5
第3表　遺跡地名表（3） …… 6

第１章　調査の経過

第１節　調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部（農地整備課・大隅耕地事務所）は、曽於郡松山町新橋表工区においてふるさと農道整備事業を計画し、実施計画地区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化課に照会した。

これをうけて平成元年５月、文化課と町教育委員会で当該地区の分布調査を実施したところ、工事実施予定区域内に１ケ所の遺跡（上ノ原遺跡）の存在していることが確認された。

この結果に基づき、県農政部農地整備課（大隅耕地事務所）、町教育委員会の間で事業の推進と埋蔵文化財の保護にかかわる協議が行われ、町教育委員会が調査主体となって県文化課の指導、協力を受けながら、遺跡の範囲・性格等を把握するための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、県の受託事業として実施した。費用は総事業費700千円で、うち県費補助539千円、町負担161千円である。確認調査は平成５年10月25日から平成５年11月23日まで実施した。

第２節　調査の組織

調査主体者	松山町教育委員会		
調査責任者	松山町教育委員会	教育長	川畑禮二
調査事務担当者	〃	管理課長	佐々木則安
	〃	参事	古市克人
	〃	主事	後藤由紀子
	〃	主事	西村和美
	〃	社会教育課長	吉井宏徳
	〃	主事	祖母仁田政明
	〃	主事	上田義明
	〃	主事	遠矢康成
	〃	社会教育指導員	寺山重隆
	〃	庶務係	中西みよ子
調査担当者	〃	主事	上田義明

なお、調査の企画等において、県教育長文化課長向山勝貞、同課長補佐梅北一人、同主幹兼企画助成係長平野誠一、同主任文化財主事兼埋蔵文化財係長吉永和人の各氏のほか同企画助成係の指導助言を得た。

第３節　調査の経過

10月25日（月）第１トレンチ第２・３層検出。出土遺物なし。
10月26日（水）第１トレンチ第４層検出。出土遺物なし。
10月28日（木）第１トレンチ第５層検出。出土遺物なし。
11月 2日（火）第１トレンチ第６層検出。出土遺物なし。
11月 4日（木）第１トレンチ第７・８層検出。出土遺物なし。写真撮影、層位断面図実測。
11月 5日（金）第１トレンチ埋め戻し終了。第２トレンチ設定。表土掘り下げ。表土内より土器片出土。
11月 8日（月）第２トレンチ第３層検出。出土遺物なし。
11月 9日（火）第２トレンチ第４層検出。出土遺物なし。
11月10日（水）第２トレンチ第５層検出。出土遺物なし。
11月11日（木）第２トレンチ第６層検出。出土遺物なし。
11月12日（金）第２トレンチ第７・８層検出。出土遺物なし。
11月15日（月）第２トレンチ写真撮影、層位断面図実測。第２トレンチ埋め戻し終了。
11月16日（火）第３トレンチ設定。表土掘り下げ。表土遺物なし。
11月17日（水）第３トレンチ第３層検出。出土遺物なし。
11月18日（木）第３トレンチ第４層検出。出土遺物なし。
11月19日（金）第３トレンチ第５層検出。出土遺物なし。
11月22日（月）第３トレンチ第６層検出。出土遺物なし。
11月23日（火）第３トレンチ第７・８層検出。出土遺物なし。写真撮影、層位断面図実測。第３トレンチ埋め戻し終了。調査終了。機材搬出。

上ノ原遺跡発掘調査作業風景

第２章　遺跡の位置及び環境

第１節　　遺跡の位置及び環境

上ノ原遺跡は鹿児島県曾於郡松山町新橋に所在する。上ノ原遺跡は町役場から東に2,5kmの標高約173m位置し、町道中山豊線を境にして東に香之田遺跡がある。上ノ原遺跡と香之田遺跡は同一の台地に立地していたと思われる。

松山町は、大隅半島・曾於郡のほぼ中央で、経緯度13度から13度7分、北緯31度37分に位置し、東西12km、南北4kmの広さで、町の総面積は49,69k㎡である。また、東に志布志、西に末吉・大隅、南に有明・志布志、北が末吉と４町に囲まれている。

山岳は末吉町に境する宮田山（520m）、有明町に境する霧岳（408m）が主な丘陵で、河川は大隅町岩川から新橋川床を経て、町の西端を流れる菱田川上流と尾野見桃木東端と大続東端を流れる安楽川支流が主な河川である。

西部や南東部はおおむね火山灰台地である。特に、西部一帯は火山灰台地が広範囲に広がっている。またこれらの火山灰台地では侵食による開析が進み、大小の谷が発達し、各台地は独立した丘陵上をなしている。

松山町で現在確認されている遺跡は98ヶ所であるが、尾野見地区は12ヶ所だけで、そのほとんどが新橋地区に所在する。そのなかで、発掘調査が行われた遺跡は７ヶ所である。なかでも、昭和60年度に発掘調査が行われた前谷遺跡、昭和63年度に行われた前谷Ｂ遺跡、井手間・山ノ田遺跡では住居跡などが確認されている。また、昭和63年度に行われた稗ヶ迫Ｂ遺跡では旧石器時代の遺物が表面採集されており、まだ松山町で発見されていない旧石器の遺跡である可能性があったが、確認調査の結果、遺物包含層は確認されなかった。

上ノ原遺跡の周辺の遺跡

第1表　遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時代							遺構・遺物	文献
			旧石	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世		
67－1	宇都谷	新橋字字都谷		○						前平式	
67－2	宇都D	新橋字字都		○				○		吉田式・土師器 須恵器・黒曜石石鏃	
67－3	砂田A	新橋字砂田		○						石坂式・押型文・石鏃	
67－4	中村	尾野見字中村		○						前平式	
67－5	下迫C	新橋字下迫		○						塞ノ神式・姫島産黒曜石	
67－6	榎之俣	新橋字榎之俣		○						塞ノ神式	
67－7	砂田D	新橋字砂田		○	○			○		轟式	
67－8	稗ヶ迫C	新橋字稗ヶ迫		○	○					轟式・岩崎式・土師器	
67－9	内ノ野C	泰野字内ノ野		○						塞ノ神式・打製石斧	
67－10	前ノ谷	泰野字堀ノ内		○							
67－11	公会堂上	新橋字公会堂上		○						塞ノ神式	
67－12	狩川B	新橋字狩川		○						阿高式・敲石	
67－13	松山	新橋字松山		○						阿高式・御領式 磨製石斧・敲石	
67－14	入道久保A	新橋字入道久保		○						阿高式・石斧	
67－15	内ノ野B	新橋字内ノ野		○						阿高式・磨製石斧 凹石・石皿	
67－16	郷田	泰野字郷田		○						阿高式・磨製石斧 凹石・石皿	
67－17	蛇山ノ谷	尾野見字蛇山ノ谷		○	○					石匙・打製石斧	
67－18	垂門A	新橋字垂門		○						市来式	
67－19	下迫A	新橋字下迫		○	○			○		御領式・土師器	
67－20	堀口	新橋字堀口		○				○		御領式・石鏃・青磁	
67－21	河床	新橋字河床		○							
67－22	宇都A	新橋字字都		○						松山式・石皿	
67－23	宇都B	新橋字字都		○				○		須恵器	
67－24	宇都C	新橋字字都		○						岩崎上層式	
67－25	中村迫	新橋字中村迫		○				○		石皿・打製石器 土師器・須恵器	
67－26	山ノ田	新橋字山ノ田		○				○		早期・松山式・土師器	
67－27	後谷A	新橋字後谷		○						指宿式	
67－28	上ノ原	新橋字上ノ原		○						綾式・岩崎上層式	
67－29	入道久保B	新橋字入道久保		○	○					打製石器	
67－30	仮屋	新橋字仮屋		○				○		土師器	
67－31	稗ヶ迫A	新橋字稗ヶ迫		○				○		御領式・土師器	

第2表　遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時代							遺構・遺物	文献
			旧石	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世		
67－32	中山A	新橋字中山		○						黒曜石	
67－33	堀之内	泰野字堀之内		○				○		市来式・黒曜石・土師器	
67－34	黒石崎	尾野見字黒石崎		○						出水式・敲石・石剣	
67－35	井手段Ⅲ	尾野見字中村井手		○						岩崎上層式	
67－36	百田	新橋字百田		○						上加世田式・打製石斧	
67－37	横溝	新橋字横溝		○				○		磨製石斧・土師器	
67－38	牧ノ原B	新橋字牧ノ原		○				○			
67－39	大原	新橋字大原		○	○			○		入来式・土師器	
67－40	後ノ谷	新橋字後谷		○				○		土師器	
67－41	水流知	新橋字水流知		○				○		土師器	
67－42	蕨野	新橋字蕨野		○				○		土師器・打製石斧	
67－43	入道久保C	新橋字入道久保		○				○		土師器・須恵器	
67－44	稗ヶ迫B	新橋字稗ヶ迫		○	○					石斧・岩崎式・弥生壺	
67－45	中山B	新橋字中山		○	○					入来式	
67－46	黒石Ⅱ	尾野見字黒石		○							
67－47	牧ノ段	新橋字牧ノ段		○							
67－48	井手間	新橋字井手間		○	○		○			押型文・弥生住居	
67－49	梨木	新橋字梨木		○				○		土師器・青磁・鉄滓	
67－50	大窪B	新橋字大窪垂門		○				○		土師器	
67－51	後谷B	新橋字後谷		○							
67－52	後ノ谷	新橋字後谷		○							
67－53	前谷	新橋字前谷		○				○		春日式・住居跡・堀立	
67－54	砂田C	新橋字砂田		○				○		土師器	
67－55	黒石Ⅰ	尾野見字黒石		○							
67－56	豊留	新橋字豊留				○				打製石斧	
67－57	大窪A	新橋字大窪				○					
67－58	狩川A	新橋字狩川				○				打製石斧・磨製石斧・敲石	
67－59	内ノ野	新橋字内ノ野				○				石斧・石鏃	
67－60	柿木瀬戸	泰野字柿木瀬戸				○				打製石斧	
67－61	六日畑	泰野字六日畑			○	○				山ノ口式・打製石斧	
67－62	中村手岡	尾野見字中村手岡				○				打製石斧	
67－63	鳩窪	尾野見字鳩窪				○				山ノ口式	
67－64	井手段Ⅰ	尾野見字中村井手				○					
67－65	砂田B	新橋字砂田				○					
67－66	川路	新橋字川路				○				打製石斧	

第3表　遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時代							遺構・遺物	文献
			旧石	縄文	弥生	古墳	古代	中生	近世		
67－67	栗須田	新橋字栗須田				○					
67－68	尾野見	尾野見				○					
67－69	桐ノ木	尾野見字桐ノ木				○					
67－70	瀬戸地下式横穴	泰野字柿木瀬戸					○			地下式横穴	
67－71	竹下	新橋字竹下						○		土師器・須恵器・青磁	
67－72	四ツ枝	新橋字四ツ枝						○		土師器・須恵器・青磁	
67－73	桑門C	新橋字桑門						○		土師器	
67－74	下迫B	新橋字下迫						○		土師器	
67－75	牧ノ原A	新橋字牧ノ原						○		土師器	
67－77	後谷C	新橋字後谷									
67－78	狩川C	新橋字狩川						○		須恵器	
67－79	清水迫	新橋字清水迫						○		土師器	
67－80	川東	泰野字川東						○		土師器・須恵器	
67－82	垂門B	新橋字垂門			○			○		土師器	
67－83	前之窪	新橋字前之窪			○			○		土師器	
67－84	泰野城跡	新橋字京ノ峯									
67－85	松山城跡	新橋字松尾								文治4年（1188年） 隠岐守重頼築城	
67－86	銭ヶ迫一里塚	尾野見字百木銭ヶ迫									
67－87	柏木門四郎の墓	尾野見字柏木									
67－88	中原一里塚	尾野見字中原									
67－89	泰野の石敢当	泰野									
67－90	馬場の庚申塔	新橋字馬場									
67－91	豊留の田之神像	新橋字豊留									
67－92	豊留の板碑	新橋字豊留									
67－93	前谷B	新橋字前谷		○	○	○				縄文晩土壙・弥生住居	
67－94	香之田	新橋字狩川		○						塞ノ神式	
67－95	宮田	新橋字宮田上									
67－96	水ノ谷	新橋字水ノ谷									
67－97	鏡段	新橋字鏡段									
67－98	大丸	新橋字大丸									

第2図　上ノ原遺跡位置図

第３図　上ノ原遺跡地形及びトレンチ配置図

第3章　調査の概要

第1節　調査の概要

上ノ原遺跡の調査区域は、菱田川の支流松尾川に余って開析された標高180mのシラス台地上に位置している。平成元年に発掘調査が行われた香之田遺跡は遺跡の東側にあり、両遺跡とも平成元年5月に分布調査が行われ、遺跡の存在が確認された。

発掘調査は、分布調査で確認された部分で、道路工事計画内に2m×4mのトレンチを基本として3ケ所設定を行った。2個所のトレンチが4層から上が削平されており、地表面に遺物は認められたが、遺物包含層は確認できなかった。

第2節　標準土層

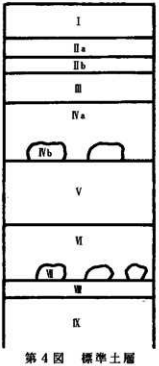
1 層　暗褐色耕作土。

2a 層　暗褐色腐食土層。細かなパミスを含む。

2b 層　暗褐色腐食土層。

3 層　明黄褐色軽石質火山灰土層。

4a 層　暗褐色腐食火山灰土層。直径1cm前後の黄橙軽石を含む。4b（アカホヤ）層の二次堆積層と思われる。



第4図　標準土層

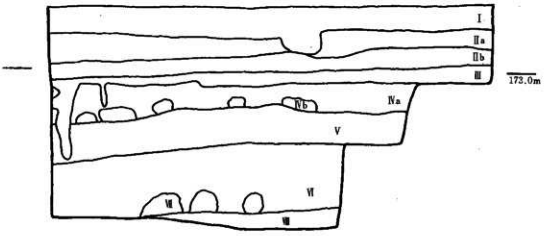
4b 層　明褐色火山灰土層。上位のフカフカした新鮮な火山灰と下位の砂粒、火山豆石を含む薄層理層とに区分できる。安定した層をなさず5層下部にブロック状に点在している場所も見られる。鬼界カルデラ起源のアカホヤ層に対比できる。

5 層　灰褐色火山灰土層。直径の1cm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含む。み、割合に硬くしまっている。5層との境は不明瞭で漸移している。

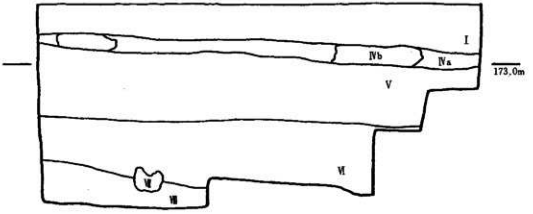
6 層　黒褐色火山灰土層。直径の5mm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含み、割合に硬くしまっている。5層との境は不明瞭で漸移している。

7 層　黄橙火山灰土層。割合に硬くしまった粘土化した火山灰土で、6層下部にブロック状にはいる。桜島起源の「薩摩層」に対比できる。

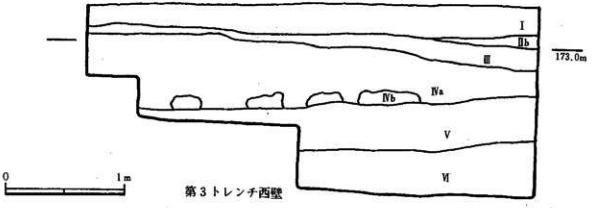
8 層　明褐色粘質土層。きわめて細粒の粘質を帯びたソフトローム層である。



第1トレンチ東壁



第2トレンチ東壁



第3トレンチ西壁

第5図　各トレンチ断面図

第4章　まとめ

今回の上ノ原遺跡の確認調査は道路計画区域に地形を考慮しながら2m × 4mを基本に3ケ所のトレンチを設定して調査したが、2個所のトレンチが4層から上がすでに削平されており、表土には土器片を確認できるものの、遺物包含層は確認できなかった。

第1トレンチ

第1トレンチは全体的に残りがよく4層から上の層を確認することはできたが、遺物は確認できなかった。2層が2a層、2b層に分かれたが2b層が畑地造成前の表土層で、2a層が造成後の層であると思われる。

第2トレンチ

第2トレンチは4層から上の層がすでに削平をうけており、遺物は確認できなかった。

第3トレンチ

第3トレンチも4層から上の層はすでに削平をうけていたが、シバ畑で徐々に表土が削られたため表土が20cm程度しかなかったが、土器片が少量出土している。しかし小片でかなり磨滅がひどいため時期は特定できなかった。

畑の所有者によると、10数年前に今回の調査区域の東側にかけて小高い丘陵上の畑地を重機を使って造成した際に多量の土器片と石器が出土したとのことだった。おそらくは遺跡の中心が第2トレンチの東約100m地点にあったものと思われる。平成元年に発掘調査を行った香ノ田遺跡は上ノ原遺跡の北東約300mにある。両遺跡とも同じ舌状台地に立地しているが、この台地の北側に川があり、生活するための条件はそろっているようだ。上ノ原遺跡の時期は出土した土器片の磨滅がひどいため確認できなかったが、平成2年3月に発行された牧ノ段・香ノ田遺跡の報告書の中で、上ノ原遺跡（報告書では青井面遺跡となっている。）は縄文時代早期の遺跡と報告されている。同じく香ノ田遺跡も縄文時代早期の遺跡である。また、香ノ田遺跡の町道を越えた北東側の台地にも平成2年度に発掘調査が行われた水ノ谷遺跡が立地している。両台地とも本来は同一のものと思われるため、これらの遺跡は同じ台地に立地しているものと考えられる。平成3年3月に発行された水ノ谷遺跡・宮田遺跡の報告書では削平により、遺跡の時期等は不明であった。

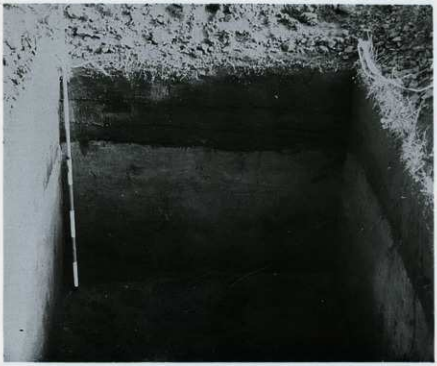
しかしこの地域に縄文時代早期の遺跡が集中していることは明らかである。台地の舌状部に立地し、近くに川が流れ水の確保が容易にできたこの地域は縄文時代早期に人々の生活の場であった事は間違いないであろう。

参考文献

(1)「牧ノ段遺跡・香ノ田遺跡」松山町埋蔵文化財発掘調査報告書1990.3松山町教育委員会
(2)「宮田遺跡・水ノ谷遺跡」　松山町埋蔵文化財発掘調査報告書1991.3松山町教育委員会

図版 2　上ノ原遺跡全景（1）

図版 3　上ノ原遺跡全景（2）



図版 3　標準土層

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書（8）

上ノ原遺跡

1994年3月

発　行　松山町教育委員会
〒899-76
鹿児島県曽於郡松山町新橋268
印　刷　志布志新生社印刷